

今後のがん研究のあり方に関する有識者会議

「がん研究10か年戦略」策定後のがん研究の支援状況と主な成果
(厚生労働省)

ひと、暮らし、みらいのために



厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

がん研究の支援体制(2014年～)
〔「がん研究10か年戦略」の「具体的研究事項」別〕

(1)がんの本態解明に関する研究

(2)アンメットメディカルニーズに応える新規薬剤開発に関する研究

(3)患者に優しい新規医療技術開発に関する研究

(4)新たな標準治療を創るための研究

(5)ライフステージやがんの特性に着目した重点研究領域
(小児がん・高齢者のがん・希少がん・難治性がんに関する研究)

(6)がんの予防法や早期発見手法に関する研究

主にAMED
疾患領域に関連
した研究開発

(7)充実したサバイバーシップを実現する社会の構築をめざした研究

(8)がん対策の効果的な推進と評価に関する研究

厚生労働科学
研究費補助金

がん対策推進総合研究事業（厚生労働科学研究費補助金）

事業概要

がん研究については「がん対策推進基本計画」に基づく新たながん研究戦略として文部科学省、厚生労働省、経済産業省の3大臣確認のもと、平成26年3月に「がん研究10か年戦略」が策定された。本戦略を踏まえ、がんの根治・予防・共生の観点に立ち、患者・社会と協働するがん研究を念頭において推進することとし、本研究事業では、がん対策に関するさまざまな政策的課題を解決するため、「がん研究10か年戦略」で掲げられた「充実したサバイバーシップを実現する社会の構築をめざした研究領域」と「がん対策の効果的な推進と評価に関する研究領域」の2領域について、介入評価研究も含めた調査研究等を中心に推進する。

また、令和5年3月に策定された第4期基本計画では、「がん予防」「がん医療」「がんとの共生」を3つの柱としており、これらのがん対策における横断的な対応が必要とされる基盤として、がん研究を推進する。

成果概要

本研究事業において、がん検診の啓発のために自治体等で活用できる資材や、希少がんのガイドライン、モバイル端末による意思決定支援プログラム及び介入マニュアル等を作成した他、小児がん患者の在宅医療に関する実態把握、がんのリハビリテーションの均てん化に資するプログラムの見直し、がんゲノム医療に携わる医師等の育成に資する研究、がん生殖医療連携ネットワーク体制の構築等を行った。

行政的・社会的な研究として、緩和ケア、相談支援に関する研究に代表される「充実したサバイバーシップを実現する社会の構築をめざした研究」、がん登録、がん教育に関する研究に代表される「がん対策の効果的な推進と評価に関する研究」等、がん対策を推進する上で必要性・重要性の高い研究を推進し、着実な成果を上げている。

希少がん、難治性がん、小児がん、AYA世代のがんへの対策、ゲノム医療等の新たな治療法等の推進、就労を含めた社会的な問題への対応が必要である。諸課題の解決に向けて今後も「がん研究10か年戦略」を踏まえて、総合的かつ計画的に研究を展開し、がん対策推進基本計画の着実な推進に資するよう事業を行っていくことが重要である。

がん対策推進総合研究事業における論文数などの業績

直近の5か年の論文数等（課題終了年度ごと）

終了年度	原著論文 (件)		その他の論文 (件)		学会発表 (件)		特許等 (件)		その他 (件)		終了 課題数
	和文	英文等	和文	英文等	国内	国際	出願	取得	施策に 反映	普及・ 啓発	公募 + 指定
H29	36	336	274	18	375	64	0	0	5	5	7
H30	0	5	1	1	14	5	0	0	1	1	1
R1	136	781	165	167	612	122	2	0	8	48	26
R2	77	311	106	48	242	26	0	0	8	43	18
R3	48	159	6	7	130	6	0	0	5	18	15

- ・厚生労働科学研究データベースより行政効果報告を抽出（令和5年4月6日時点）
- ・研究終了年度から5年間、随時データの更新を研究者に依頼している

「乳がん検診の適切な情報提供に関する研究」

H30～R2 実施機関: 福井県済生会病院

乳がん検診受診者への「高濃度乳房について」等に関するアンケートを参考に、高濃度乳房についての質問・回答集(QA集)で多く読まれた項目をまとめたパンフレットを作成した。高濃度乳房や乳がん検診に関して受診者の理解が深まることで、受診者の検診受診後の適切な行動が推進された。

もし高濃度乳房(白っぽい乳房)であつたら、どうしたらよいでしょうか。放置すると乳がんになるのでしょうか。

乳房構成は乳房内の乳腺と脂肪の割合を表す言葉であり、高濃度乳房(白っぽい乳房)は病気ではありません。そのため、高濃度乳房であったとしても、一般的には追加で処置を受けるなどの特別な対応をとる必要はありません。乳房構成と乳がん発症リスクに関しては、日本人を対象としたデータはごく限られたものしかありません。欧米のデータによると、高濃度乳房の人は、脂肪性乳房の人と比べると乳がんになる可能性がわずかに高くなると報告されています。

高濃度乳房であるかどうかにかかわらず、どの乳房のタイプであっても、定期的に自身の乳房の変化を確認することや、検診を定期的に受診することが大切です。自覚症状のない方でも、乳がんのリスクが高いと考えられる人は、乳腺専門医などに個別に相談することを考えてもよいでしょう。

プレスト・アウェアネスについて教えてください。

女性自身が自分の乳房の状態に白濁から痛みをもち、乳房を患患して生活することを「プレスト・アウェアネス」といいます。プレスト・アウェアネスは乳がんの早期発見・早期診断・早期治療につながる、女性にとってとても重要な生活習慣です。「プレスト・アウェアネス」を身につけるためには以下の4つの項目を実行することが大切です。乳がん検診はその大切な1項目です。

- ① 自分自身の乳房の状態を知るために、日頃から自分の乳房を、見て、触って、感じる習慣を付けましょう(乳房の健康チェック)
- ② 気をつけなければいけない乳房の変化を知りましょう。(しこりや自性の乳腺分泌など)
- ③ 乳房に変化がないかを意識し、変化を感じたら、すぐに専門医を受診しましょう。
- ④ 40歳になったら、乳がん検診を受診しましょう。

更に詳しいことをお知りになりたい方は、以下のサイトをご参照ください。

「高濃度乳房についてのQ&A」
<https://breastcs.org/information/faq/>

問い合わせ先
 (公財)福井県健康管理協会 健診サービス課
 TEL 0776-98-8000
 FAX 0776-98-3502

「希少癌診療ガイドラインの作成を通じた医療提供体制の質向上」

H29～R1 実施機関: 名古屋大学

「学会連携を通じた希少癌の適切な医療の質向上と次世代を担う希少がん領域の人材育成に資する研究」

R2～R4 実施機関: 名古屋大学

「脳腫瘍診療ガイドライン2019年版」、「成人・小児進行固形がんにおける臓器横断的ゲノム診療のガイドライン第2版」を作成した。

その他、「頭頸部癌診療ガイドライン2022年版」、「GIST診療ガイドライン第4版」等を作成した。

こうした過程で活発な人材交流が行われることで、人材の育成がなされた。

脳腫瘍

診療ガイドライン 2019年版

1 成人脳腫瘍編 · 2 小児脳腫瘍編

Practical Guidelines for Neuro-Oncology 2019

特定非営利活動法人 日本脳腫瘍学会 編集
 The Japan Society for Neuro-Oncology
 一般社団法人 日本脳神経外科学会 監修
 The Japan Neurosurgical Society



「思春期・若年成人 (AYA) 世代がん患者の包括的ケア提供体制の構築に関する研究」

H30～R2 実施機関: 国立国際医療研究センター

がん診療連携拠点病院等の「AYA支援チーム」に求められる機能は「患者の捕捉」「ニーズアセスメント」「多職種連携/院外連携」に集約された (AYA支援モデル)。地域がん診療連携拠点病院等に構築した「AYA支援チーム」のモデルの紹介やAYAがんの医療や支援の課題 (ライフプランにあわせた支援の必要性や多職種連携の必要性など) を、冊子How to create an AYA support teamにまとめ、公開した。



「がん・生殖医療連携ネットワークの全国展開と小児・AYA世代がん患者に対する妊孕性温存の診療体制の均てん化にむけた臨床研究—がん医療の充実を志向して」

R1～R3 実施機関: 聖マリアンナ医科大学

各地域におけるがん・生殖医療連携ネットワーク体制の構築を促進するためOncofertility Consortium Japan (課題や情報の共有システム)のウェブサイト を構築し、47都道府県が参加した。地域のネットワーク要件について、研究班で整理を行い、「小児・AYA 世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業」の実施要綱に反映された。

また、がん治療を行う医療機関内の院内体制整備マニュアルの作成および患者向けのパンフレット (小児がん拠点病院向けの資料含む) を作成し、がん・生殖医療ネットワークにおいて広く啓発活動を行った。

Network

地域ネットワーク

がん治療と生殖医療の地域連携を、日本中に広げていきます。

一括で多様な治療と生殖医療の両立をはかるためには、地域の医療機関が連携することが重要です。私たちがその連携を促進するために、以下は、様々な取り組みを進めています。

※本図はあくまで一例として、詳細はご所属の機関にお問い合わせください。掲載の可否は各機関の判断によるため、掲載していない場合があります。

Hokkaido	Ishikawa	Okayama
Aomori	Fukui	Hiroshima
Iwate	Yamanashi	Yamaguchi
Miyagi	Nagano	Tokushima
Akita	Gifu	Kagawa
Yamagata	Shizuoka	Ehime
Fukushima	Aichi	Kochi
Ibaraki	Mie	Fukuoka
Tochigi	Shiga	Saga
Gunma	Kyoto	Nagasaki
Saitama	Osaka	Kumamoto
Chiba	Hyogo	Oita
Tokyo	Nara	Miyazaki
Kanagawa	Wakayama	Kagoshima
Niigata	Tottori	Okinawa
Tohoku	Shimane	



「がん患者の療養生活の最終段階における体系的な苦痛緩和法の構築に関する研究」

R1～R3 実施機関：国立がん研究センター

がん疼痛・呼吸困難・終末期せん妄に対するアルゴリズム治療を含む緩和治療ガイドに基づいた医療従事者向けの研修会を令和3年11月6日に開催した。また、難治性がん疼痛治療に関する実態調査を実施し、これにより得られた知見は令和4年1月14日に開催した「第4回 がんの緩和ケアに係る部会」での検討に用いられた。

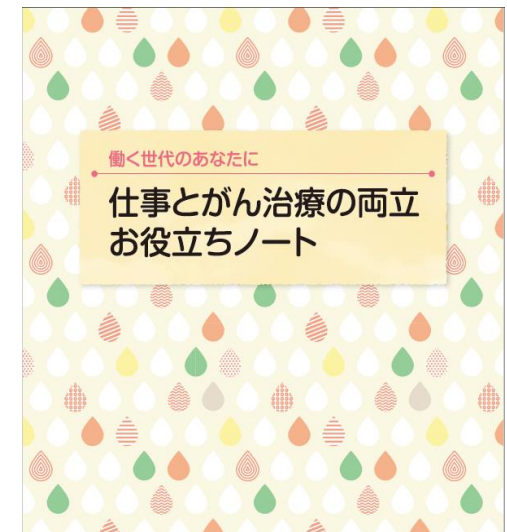


「がん患者の就労継続及び職場復帰に資する研究」

H29～R1 実施機関：国立がん研究センター

事業場における治療と職業生活の両立支援のためのガイドライン(厚生労働省)や、2016年12月のがん対策基本法の一部改正を踏まえ、がん患者が安心して治療に臨めるように、また復職支援がスムーズに行えるための工夫として、がん患者が直面する経済的な面での情報提供と、事業者側と主治医などの医療者側とが適切な連携をとることの効果効用のリサーチ、ならびにがん患者の診断から休職、復職までのメンタルヘルスについての知見をまとめた。

さらに、がん拠点病院等医療機関のがん相談支援センターや職域で活用できる実用的な「がん患者就労支援ガイダンス」、「就労意見書作成支援ソフト(がん共通版)」等を開発した。



令和5年度新規研究課題の主な研究内容等

がん予防

がん対策推進基本計画における がん予防に資する研究

- がん検診受診率の妥当性評価に関する研究
- HPVワクチン接種状況による子宮頸がん罹患リスクの評価と子宮頸がん検診の受診勧奨の有効性評価に資する研究
- 職域がん検診の促進に資する方策の検討及び実装に向けた研究
- ジェンダーによるがん検診の実態把握と受診率向上促進に向けた効果的な方策に資する研究
- 新型コロナウイルス感染症によるがん診療及びがん検診などの受診状況による中長期的な健康影響の解明に向けた研究

がん医療

がん対策推進基本計画における がん医療に資する研究

- がん対策推進基本計画の進捗管理に資する評価指標の実装に向けた研究
- 小児がん拠点病院等及び成人診療科との連携による長期フォローアップ体制の構築のための研究
- 妊孕性温存療法及びがん治療後のがん・生殖医療に関する情報提供及び意思決定支援の均てん化の推進と安全な長期検体保管体制の確立と定着のための研究
- がんゲノム医療推進に向けたがん遺伝子パネル検査の実態把握とがんゲノム医療提供体制構築に資する研究
- 希少がん診療・相談支援におけるネットワーク構築に資する研究
- 緩和ケアチーム等により提供される専門的な緩和ケアの質の評価に資する研究
- がんのリハビリテーション、およびリンパ浮腫診療の一層の推進に資する研究

がんとの共生

がん対策推進基本計画における がんとの共生に資する研究

- がんの相談支援の質の確保及び持続可能な体制の構築に資する研究
- 小児がん患者に対する在宅医療提供体制の整備と更なる充実のための研究
- 限局期がん患者を含む、がん患者に対する効果的かつ効率的な意思決定支援の実装に向けた研究
- がん患者の精神心理的苦痛や社会的苦痛に対する支援法の実装に資する開発研究
- 科学的根拠に基づくがん情報の迅速な作成と提供のための体制整備のあり方に関する研究
- がん患者の治療と仕事の両立支援や就職支援プログラムの実装に向けた研究
- アピアランスケアに関する相談支援・情報提供体制の構築に向けた研究
- がん患者の自殺予防プログラムの開発に向けた研究
- 精神障害のある方に対するがん検診及びがん診療のアクセシビリティに資するための研究
- 高齢がん患者の在宅療養環境の実態把握とその課題を検討する研究
- 年齢調整死亡率・罹患率に影響を与えるがん対策の検討に資する研究
- AYA世代のがんサバイバーの療養や生活の質の向上に資する研究

これらを支える基盤

- 全国がん登録情報の利用に関する抵抗マニュアルにおける、安全管理措置の改定に向けた検討
- がん領域（特に希少がん、小児がん）の治験等に関する医療従事者の情報リテラシーの向上に資する研究